

令和 7 年度 地理歴史科 シラバス

科 目	歴史総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	「高等学校 歴史総合」（第一学習社）				
補助教材等	「高等学校 歴史総合」（第一学習社） 準拠ノート 「新詳 歴史総合」（浜島書店） 資料集				

1 学習の到達目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方、課題を追及し解決する活動を通し、広い視野にたち、グローバル化する国際社会を主体的に生きるため、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を身につける。</p>

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○きちんとした態度で授業を受け、復習をする。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨			
主な評価方法	・定期考査（知識問題）	・定期考査 （資料読解・論述問題） ・課題プリント	・授業態度、出席など

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4～6 月	第1部 歴史の扉 第2部 第1章 1. 18世紀のアジアの繁栄 2. 産業革命と市民革命	教科書など	18	・複数の資料の関係や異同に着目し、資料から読み取った情報の意味、意義、特色などを考察する。 ・18世紀の日本やその他のアジアにおける経済活動や社会の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを考察し表現して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する ・アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察し表現して、工業化と世界市場の形成を理解する。	学 習 評 価 に 同 じ
7～9 月	3. イギリスの繁栄と国民国家の拡大 4. アジア諸国の変貌と日本の		17	・アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察	

	開国			し表現して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察し表現して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する	
10～12月	5. 帝国主義の発展 第2部 第2章 1. 第一次世界大戦と大衆社会 2. 経済危機と第二次世界大戦		18	・第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを考察したり表現したりして、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考察したり表現したりして、国際協調体制の動揺を理解する。	
1～3月	3. 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 第2部 第3章 1. 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 2. 国際秩序の変容と21世紀の世界		17	・第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察したり表現したりして、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを考察したり表現したりして、国際政治の変容を理解する。	

令和 7 年度 数学 科 シラバス

科 目	数学 I・数学 A	単位数	3・2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	数研出版 新編 数学 I、数研出版 新編 数学 A				
補助教材等	数研出版 教科書傍用 基本と演習テーマ 数学 I + A				

1 学習の到達目標

数学 I、数学 A の学習を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 復習に力を入れ、毎日、継続して学習をする習慣をつけましょう。
学習した内容が身についているか問題を解いて確認するとともに、分からないところをそのままにしない姿勢を大切にしましょう。
- せっかく身についたはずのことも、時間が経つと忘れてしまうのは自然なことです。
繰り返し粘り強く学習し、定着を図りましょう。
- 答えを確認するときは、ただ結論があっているかを確認するだけでなく、過程まで確認するようにしましょう。間違いの原因を探ると、新たな発見があるかもしれません。○

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、表現したりする能力が身につけるようにする。	数や式を多面的にみたり、目的に応じて適切に変形したりする力、論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現して、その特徴を表・式・グラフ等に表し、問題解決をする力を養う。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内の取り組みの様子 ・ 提出物の記載内容 等・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4 5	数学 I 第1章 数と式	教科書 完成ノート	<p><第1節 式の計算></p> <p>1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解</p> <p><第2節 実数></p> <p>4 実数 5 根号を含む式の計算</p> <p><第3節 1次不等式></p> <p>6 不等式の性質 7 1次不等式 8 1次不等式の応用 9 絶対値を含む方程式・不等式</p> <p><学習のねらい></p> <p>・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字に置き換えたりするなどして、既に学習した計算方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形する力を養う。(第1節)</p> <p>・中学までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系について理解を深める。その際、実数が四則演算について閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。(第2節)</p> <p>・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を養う。(第3節)</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次の展開や因数分解の公式を適切に用いて計算できる。(第1節) ・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができる。(第2節) ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。(第3節) <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり、目的に応じて適切に式変形したりすることができる。(第1節・第2節) ・日常の現象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。(第3節) <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数と式の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。
5 ~ 7	数学 I 第3章 二次関数	教科書 完成ノート	<p><第1節 二次関数とグラフ></p> <p>1 関数とグラフ 2 二次関数のグラフ</p> <p><第2節 二次関数の値の変化></p> <p>3 二次関数の最大・最小 4 二次関数の決定</p> <p><第3節 2次方程式と2次不等式</p>	<p>(a) 知識・技能、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。(第1節) ・二次関数の最大値や最小値を求めることができる。(第2節) ・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等

			<p>></p> <p>5 2次方程式</p> <p>6 二次関数のグラフとx 軸の位置関係</p> <p>7 2次不等式</p> <p><学習のねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。(第1節) ・2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。(第2節) ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。(第3節) 	<p>式の解を求めることができる。(第3節)</p> <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察できる。(第1節、第2節) ・二つの数量の関係に注目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできる。(第3節) <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を二次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
7 8	数学 I 第2章 集合と命題	教科書 完成ノート	<p>9</p> <p>1 集合</p> <p>2 命題と条件</p> <p>3 命題とその逆・対偶・裏</p> <p>4 命題と証明</p> <p><学習のねらい></p> <p>集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
9 10	数学 I 第4章 図形と計量	教科書 完成ノート	<p>21</p> <p><第1節 三角比></p> <p>1 三角比</p> <p>2 三角比の相互関係</p> <p>3 三角比の拡張</p> <p><第2節 三角形への応用></p> <p>4 正弦定理</p> <p>5 余弦定理</p> <p>6 正弦定理と余弦定理の応用</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋭角の三角比の意味と相互関係を理解している。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。(第1節) ・正弦定理や余弦定理について三

			<p>7 三角形の面積 8 空間図形への応用</p> <p><学習のねらい> 三角比の基本的な性質を理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を用いて問題解決をする力を養う。(第1節)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理・余弦定理などを活用して問題を解決したり、する力を培う。 	<p>角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理や余弦定理などを用いて、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。(第2節) <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や、他の事象との関連を考察したりすることができる。 <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え、科学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
11	数学 I 第5章 データの分析	教科書 完成ノート	<p>10</p> <p>1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間関係 6 仮説検定の考え方</p> <p><学習のねらい> ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味やその使い方を理解している。 ・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの散らばり具合や、傾向を数値化する方法を考察できる。 ・目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決

					<p>にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。</p> <p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</p>
11 12 1	数学A第1章 場合の数と 確率	教科書 完成ノート	36	<p><第1節 場合の数></p> <p>1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組み合わせ</p> <p><第2節 確率></p> <p>5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値</p> <p><学習のねらい></p> <p>場合の数や確率を求めるときの基本的な考え方について理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や、和の法則、積の法則など数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に、順列および組み合わせの意味を理解し、順列の総数や組み合わせの総数を求めることができる。(第1節) ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。(第2節) <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象の構造などに注目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。(第1節) ・確率の性質や法則に注目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり期待値を意思決定に活用したりすることができる。(第2節) <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

					している。
1 2	数学A第2章 図形の性質	教科書 完成ノート	28	<p><第1節 平面図形></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 <p><第2節 空間図形></p> <ol style="list-style-type: none"> 8 直線と平面 9 空間図形と多面体 <p><学習のねらい></p> <p>平面図形・空間図形の理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>(a) 知識・技能、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形、円に関する基本的な性質について理解している。(第1節) ・ 空間図形に関する基本的な性質を理解している。(第2節) <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の構成要素間の関係や、既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見出したり、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・ コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

令和 7 年度 理科 シラバス

科目	物理基礎	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年 1.~6 部
使用教科書	数研出版 物理基礎				
補助教材等	数研出版 フォローアップドリル物理基礎、リードα				

1 学習の到達目標

日常生活で使われている力・運動・エネルギー・波・電気など、物理的な事象について考察し、その基本的な原理を理解する。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 授業範囲はその日のうちに復習する。あわせて、問題集の関連単元の基本および応用問題を解く。
- 普段から、日常生活で起きる様々な現象や事物について興味関心を持つ。
- 興味や疑問に思ったことはそのままにせず、仮説を立てて・検証していく姿勢を持ってほしい。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	物理現象への理解を深め、科学的に探究するために必要な知識、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業や家庭学習において、課題やレポート等の取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	運動の表し方	教科書 問題集 授業プリント	6	速度 加加速度	(a) 物体の速さの式を理解している。 $x-t$ 図, $v-t$ 図を理解できている。直線上の合成速度, 相対速度の意味と求め方を理解している。 (b) 等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。動く観測者から見た場合の, 観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。 (c) 日常の運動から, 速さ, 時間, 進む距離についての関係に興味をもち, 速さと速度の違いや, 相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 (a) 加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。等加速度直線運動を表す 3 つの式がどのようにして得られたかを理解し, その式やグラフを正しく運用することができる。 等加速度直線運動する物体のようすについて説明で

				<p>きる。</p> <p>(b) 加速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。</p> <p>(c) スタート直後の速さの比較によって、加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。</p>
5	運動の表し方	教科書 問題集 授業プリント	8 落体の運動	<p>(a) 自由落下や鉛直投射において、式の運用ができる。水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解している。</p> <p>(b) 自由落下する物体のようすについて説明できる。重力加速度の意味を正しく理解し、落下する物体の運動のようすを考えることができる。</p> <p>(c) 日常の運動から、落下する物体の運動に興味をもち、自由落下する物体の運動、鉛直投射された物体の運動の表し方を理解しようとしている。</p>
6	運動の法則	教科書 問題集 授業プリント	8 力とそのはたらき 力のつり合い	<p>(a) 重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について、理解できている。</p> <p>(b) フックの法則とばね定数の意味を理解し、グラフからばね定数を読み取ることができる。重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり、運動の状態によらないことを説明できる。</p> <p>(c) 見ること、触ることができない「力」に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている</p> <p>(a) 力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式が立てられる。作用・反作用の 2 力とつりあいの 2 力を区別して考えることができる。</p> <p>(b) 3 つの力がはたらいてつりあうときの力の関係を確認でき、理解できている。</p> <p>(c) 力が合成・分解して表されることに興味をもち、「力がつりあう」とはどういうことかを理解しようとしている。「作用・反作用」と「つりあい」の 2 力との違いについて、考えようとしている。</p>
7	運動の法則	教科書 問題集 授業プリント	6 運動の法則 摩擦力	<p>(a) 物体が力を受けるとき(あるいは受けないとき)、運動状態はどのようになるか、逆に、物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる。</p> <p>(b) 慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。</p> <p>(c) 物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとしている。</p> <p>(a) 注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは 2 物体間の面の状態を表す静止摩擦係数 μ と、垂直抗力 N との積で表される</p>

				浮力	<p>ことを理解している。静止摩擦力を用いた力のつりあいの式を立てたり、動摩擦力を用いた運動方程式を立てることができる。</p> <p>(b) 摩擦力がどのような力かを理解し、運動を妨げる向きにはたらく運動について考えることができる。物体にはたらく摩擦力について説明できる。</p> <p>(c) 摩擦力がないときと比較するなどして、どのようなときに静止摩擦力や動摩擦力が現れるか、またそのときの物体の運動について、興味・関心をもち考えようとしている。</p> <p>(a) 圧力を求める式を理解できている。水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。</p> <p>(b) 水中にある物体には、どのような水圧が加わるか、またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し、説明できる。</p> <p>(c) 日常の現象などを通して、水中や空気中で圧力があることに関心を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか、そもそも圧力とは何か、ということを考えようとしている。</p>
8	仕事と力学的エネルギー	教科書 問題集 授業プリント	2	仕事	<p>(a) 仕事、仕事率を計算して求めることができる。物体に対して力がはたらいていても、仕事が 0 のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。「仕事の原理」を仕事を計算して求めたものを比較することにより、理解している。仕事率Pは「W/t」だけでなく、「Fv」でも求められることを理解している。</p> <p>(b) 物体に対して力がはたらいていても、仕事が 0 のときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。「仕事の原理」を理解し、道具を用いたときに必要な仕事はどうなるかを説明できる。</p> <p>(c) 日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。</p>
9	仕事と力学的エネルギー	教科書 問題集 授業プリント	8	運動エネルギー 位置エネルギー	<p>(a) 運動エネルギーが $1/2 \times mv^2$ であることを理解している。運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。</p> <p>(b) 運動エネルギーがどのようなものかを理解し、説明できる。運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを用いて、物体の運動を説明できる。</p> <p>(c) 運動している物体は、どのようなエネルギーをもっているかについて興味をもち、考えようとしている。</p> <p>(a) 重力による位置エネルギーを計算することができる。弾性力による位置エネルギーを計算することができる。物体が基準点まで移動するときに保存力がする仕事、位置エネルギーであることを確認できる。</p>

					<p>(b) 状態が異なる場合の位置エネルギーを、比較して考えることができる。重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて説明することができる。</p> <p>(c) 位置エネルギーは、運動エネルギーのように動きがあり目立つものではないが、仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち、理解しようとしている。</p>
10	仕事と力学的エネルギー	教科書 問題集 授業プリント	8	力学的エネルギーの保存	<p>(a) さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解している。力学的エネルギー保存則が成りたつための条件が整っているかどうかを判断できる(→保存力以外の力が物体に対して仕事をしない)。</p> <p>(b) 力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体のもつ運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。</p> <p>(c) 力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとしている。</p>
11	熱とエネルギー	教科書 問題集 授業プリント	6	熱と物質の状態	<p>(a) 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。物質が、固体→液体、液体→気体になる際の、熱のやりとりについて理解している。</p> <p>(b) 日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。水の状態図から情報を読み取り、日常的な事象について理由などを推測し、説明することができる。</p> <p>(c) ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。</p>
12	熱とエネルギー	教科書 問題集 授業プリント	6	熱と仕事	<p>(a) 仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。熱機関と熱機関の効率について理解している。</p> <p>(b) 日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。</p> <p>(c) 熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。</p>
1	波の性質	教科書 問題集 授業プリント	6	波と媒質の運動	<p>(a) 波の発生原理や基本事項を理解している。縦波と横波の違いを理解している。縦波を横波の形で表現できている。</p> <p>(b) 波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。波の基本事項について説明できる。与えられた情報を正しく読み取り、問いに答えられている。</p> <p>(c) 身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や</p>

					基本事項について理解しようとしている。
2		教科書 問題集 授業プリント	6	波の伝わり方	<p>(a) 定在波の生じるしくみを理解している。ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。</p> <p>(b) 定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。</p> <p>(c) 波が衝突や反射するときどのようなようになるか、興味を持って、自分の考えを述べることができる。</p>

令和 7 年度 理 科 シラバス

科 目	生物基礎	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書					
補助教材等					

1 学習の到達目標

<p>1. 生物学的な事物・現象について実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を培う。</p> <p>2. 生物学的な原理・法則などについて、科学的・統計的な手法を取り入れ、生物学的に考察し、処理する能力を育てる。</p>

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○前の時間の復習を行い、計画的に知識の整理と充実に心がけるようにする。</p> <p>○補助教材の問題集にしっかり取り組むことで定着が図られます。</p> <p>○自分が興味を持った分野に関連した一般書も読んでほしいと思います。大きな視野で生物を捉えることができるし、生物に関する知識や理解が幅広くなります。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生命現象への理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業や家庭学習において、課題やレポート等の取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準

4月	生物の多様性と共通性	教科書 問題集 授業プリント	6	生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。	生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解している。a 原核細胞と真核細胞の共通点と相違点を見いだすことができる。b
5月	エネルギーと代謝	教科書 問題集 授業プリント	8	実験：顕微鏡の使い方を習得する。マイクロメーターを用いた長さの測定方法を習得する。 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。細胞の生命活動のエネルギーは ATP の形で供給されることを理解する。	マイクロメーターを用いて細胞などの大きさが測定できる。bc ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解できる。a 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。b
6月	呼吸と光合成 遺伝情報と DNA	教科書 問題集 授業プリント	8	呼吸や光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内に必要な化学反応が進行することを理解する。 DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報は DNA の塩基配列にあることを理解する。	酵素の触媒作用と基質特異性について理解し説明できる。b 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。a DNA の構造および塩基の相補性を理解する。a DNA の構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などの DNA の構造の特徴を見いだすことができる。b
7月	情報の複製と分配	教科書 問題集 授業プリント	6	DNA が、半保存的に複製されることを理解する。細胞周期の進行に伴って、DNA が正確に複製され、2 つの細胞に分配されることを理解する。 実験：DNA を抽出して生物が DNA をもつことを確かめる。	DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解できる。a 細胞当たりの DNA 量と細胞数の関係のグラフから、特定の条件で細胞周期の各期の長さを推定できることに気づくことができる。b 手順に基づいた抽出ができる。bc
8月	遺伝情報の発現	教科書 問題集 授業プリント	2	タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。	DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解できる。a
9月	遺伝情報の発現	教科書 問題集 授業プリント	8	個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。 タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に	コドンが塩基 3 個の配列で 20 個のアミノ酸を指定している理由について考え、説明することができる。b 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解できる。a さまざまな生物とその遺伝子数を調べ、その生物の特徴と遺伝子数の

				応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	関係についての自分の考えをまとめ、説明することができる。c
10月	体内での情報伝達と調節	教科書 問題集 授業プリント	8	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。 実験：豚の内臓の観察 体内の内臓の作りを観察して、体内の器官の働きを理解する。	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解できる。a 身近な事例において、からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目して考え、説明することができる。b 実際の器官に触れて器官の構造やはたらきを理解できる。bc
11月	体内環境の維持のしくみ	教科書 問題集 授業プリント	6	ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 実験：校内の樹木の観察 校内の樹木について葉の付き方・種子の特徴などを観察する。	自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解できる。a I型糖尿病とII型糖尿病の違いに基づいて、糖尿病の検査内容や治療方法について、自ら調べたり、考えたりすることができる。c 樹木による特徴の違いを理解するb c
12月	免疫のはたらき	教科書 問題集 授業プリント	6	からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。	自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解できる。a 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考えることができる。b
1月	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	教科書 問題集 授業プリント	6	植生の成りたちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。	植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解できる。a 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。b 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解できる。a 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。
2月	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	教科書 問題集 授業プリント	6	生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。 生態系がもつ復元力について理解する。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する	生態系がどのように構成されているのかを理解できる。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を

					調べ, 考察し, 説明できる。bc
--	--	--	--	--	-------------------

科 目	体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

・体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○原則として、全ての種目を履修・習得すること。長期間（概ね20日以上）の欠席及び見学は、医師による診断書の提出が必要になる場合があるので相談して下さい。

-
-
-

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習の仕方、運動を行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解している。	与えられた課題を解決するために論理的に考え、解決するために正しく判断できている。また、仲間と相談し、より良い解決に導こうとしている。	・自ら進んで運動の楽しさや喜びを味わおうとする。健康や安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。
主な評価方法	・実技テスト （記録計測、チーム戦績、技能の完成度） ・観察及び完成度 ・レポート等	・観察及び完成度	・観察及び完成度 ・レポート等

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	体づくり運動 陸上競技 体育理論	ストレッチ ウォーキング 持久走 スポーツテスト	8	活動的な運動・静的な運動、ウォーキング・ジョッキング等により体力を高める。 持久走により、有酸素能力の向上に努める。 スポーツテストの実施により、自己の体力要素を把握する。	1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。
5 6	球技	男子 ソフトボール 女子 バレーボール	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
6 7	水泳 体育理論	クロール 平泳ぎ 体育編 スポーツの 発祥と発展	8	クロール・平泳ぎの基本的な技術を体得し、より長く泳げるようにする。 記録測定。 体育理論についてはスポーツの意義などについて知る。	
8 9	球技	男子 バレーボール 女子 ソフトボール	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
10	陸上競技	持久走	3	持久走により、有酸素能力の向上に努める。記録測定。	
10 11	球技	男子 サッカー 女子 バスケットボール	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
11 12 1	球技	男子 バスケットボール 女子 フットサル	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
1 2	球技 体育理論	バドミントン 体育編 運動・スポーツの学び方（前半）	10	バドミントンは、ダブルスを通じて、ペア（集団）の中の個の技能と動き方を習得し、その楽しさを体得する。 運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学ぶ。	

科目	保健	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

健康・安全について理解を深め、ヘルスプロモーションの考え方を身に付ける。また、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、向上させる資質や能力を身につける。

近年、問題視されている様々な問題から、環境・こころや体についての課題を把握し、個人の健康の保持増進に活用していく。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○教科書を中心に授業を行う。必要に応じて、黒板やパワーポイント、動画学習を用いて、幅広い知識を習得する。

-
-
-

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	近年問題視されている健康問題や環境問題について、個人が関心を持ち、適切に意思決定・行動選択を行い、健康で安全な生活を送ることができるよう、日々学習に取り組んでいる。	健康的な生活を送るための適切な行動について、論理的に考え、適切に判断できるようになる。	生涯にわたって健康的な生活を送るために、必要な知識と行動選択の仕方を理解しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末考査 ・ 課題の提出 ・ 観察及び記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察及び記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末考査 ・ 観察及び記録 ・ 課題の提出

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
前期	第1章 現代社会と健康	教科書 プリントなど	18	<ul style="list-style-type: none"> ①日本における健康課題の変遷 ②健康の考え方と成り立ち ③ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ④健康に関する意思決定・行動選択 ⑤現代における感染症の問題 ⑥感染症の予防 ⑦性感染症・エイズとその予防 ⑧生活習慣病の予防と回復 ⑨身体活動・運動と健康 ⑩食事と健康 ⑪休養・睡眠と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ④考查得点 ⑤出欠席数 以上を総合的に判断し評価する。
後期	第2章 生涯を通じる健康	教科書 プリントなど	17	<ul style="list-style-type: none"> ①がんの予防と回復 ②喫煙と健康 ③飲酒と健康 ④薬物乱用と健康 ⑤精神疾患の特徴 ⑥精神疾患への対応 ⑦事故の現状と発生要因 ⑧交通事故防止の取り組み ⑨安全な社会の形成 ⑩応急手当の意義と救急医療体制 ⑪心肺蘇生法 ⑫日常的な応急手当 	

令和 7 年度 芸術 音楽科 シラバス

科 目	音楽 I	単位数	2 単位	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	・ MOUSA 1 (教育芸術社)				
補助教材等					

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○グループワークやアンサンブル等、仲間との活動が多くなります。仲間の話をよく聞いたり、自分の考えを伝えるなど、コミュニケーションを大切にしてください。

○わかることやできることは、仲間に教えてあげましょう。わからないことやできないことは、仲間に教えてもらいましょう。

○自ら楽しむこと、楽しい雰囲気を作るように心掛けることが、楽しい授業になるポイントです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・ 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり及び、音楽の多様性について理解しているか ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識や技能を身につけているか	・ 自分のイメージをもって音楽表現を創意工夫しているか ・ 音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができるか	・ 音楽や音楽文化に関心を持ち、積極的に音楽表現や鑑賞に取り組もうとしているか
主な評価方法	・ 取り組みの様子 ・ 提出物の内容 ・ 実技や発表、作品などの内容	・ 取り組みの様子 ・ 提出物の内容 ・ 実技や発表、作品などの内容	・ 出席状況 ・ 取り組みの様子 ・ 提出物の内容 ・ 実技や発表、作品などの内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	①楽典	教科書・補助教材	36	①音楽の基礎的な知識	①楽譜上の音符や記号について理解している(ac)
5 6 7	②鑑賞			②音楽の要素に着目した鑑賞	②音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞する

8 9	③歌唱 ④器楽			③日本歌曲 ④楽器の演奏1	ことができる(abc) ③歌詞や曲想を理解し、表現を工夫して歌うことができる(abc) ④基本的な奏法や楽譜の読み方を理解し、表現を工夫して演奏することができる(abc)
10 11 12 1 2	⑤歌唱 ⑥創作 ⑦鑑賞・器楽 ⑧器楽	教科書・補助教材	34	⑤外国語歌曲 ⑥変奏 ⑦伝統芸術の鑑賞・実技 ⑧楽器の演奏2	⑤歌詞や曲想を理解し、正しい発音で歌うことができる(abc) ⑥自分の表したいイメージに合う表現を考えることができる(abc) ⑦日本・海外の伝統的な芸術を鑑賞・演奏することで、理解を深め、技能を身につけている(abc) ⑧基本的な奏法や楽譜の読み方を理解し、表現を工夫して演奏することができる(abc)

令和 7 年度 芸術 美術 科 シラバス

科目	美術	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	高校生の美術 1 日本文教出版				
補助教材等					

1 学習の到達目標

<p>美術の学習では、上手に描いたり、つくったりする表現技法を身に付けることや、鑑賞で作品や作家の名前を覚えることが最終の目的ではありません。自分の思いや考えを色や形で思ったように表したり、自分から進んで鑑賞したりすることを通して、美術が好きになり、様々な創造活動に触れて美的体験を豊かにし、直感力や創造的発想力をつけていくことが求められます。</p> <p>自分が思ったことを思ったように描ける表現技能として描写力を身に付けることは必要ですが、一番大事なことは世界にただ一つしかない自分らしい表現をすることです。それがこの授業の目標です。</p>

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○対象物を表現する場合、基本はものをよく見ることです。離れて全体を見たり、部分を拡大してみたり、構造を見たりすることです。制作途中にも、自分の作品を少し離れてじっくりと見たりすることが大切です。</p> <p>○完成に近づけるまで試行錯誤を繰り返して、自分が納得するまで作品を追求することが大切です。</p> <p>○美術館などで美術を鑑賞する場合、自分が一番好きな作品を一つか二つ見つけてくるつもりで絵などを観ることです。興味を持ったら、その作品やその作家について調べてみたりすると鑑賞が深まります。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	造形的な視点を豊かにするための知識や表現における創造的な技能を身に付けて適切に使っている。	表現における発想や構想の能力、鑑賞における価値意識を伴った見方や感じ方を深めている。	制作に主体的に取り組む、美術を愛好する心情、豊かな感性や情操を深めている。学んだことを社会や生活に生かそうとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 計画表の記述による知識の確認 	<ul style="list-style-type: none"> エスキース、計画表、提出作品による確認 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作に取り組む姿勢 振り返りシートの記述による確認 生徒による自己評価や相互評価による確認

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
---	----	----	----	------	------

4	モノトーンによる平面構成	参考作品	4	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。 ・描画材のもつ特性を生かし、鉛筆の濃淡でイメージする空間を表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にデザインの表現の創造活動に取り組もうとしている。(c) ・造形の特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。(a) ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。(a)
5 6 7	分割法による平面構成	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・参考作品 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成する。 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練る。 ・色彩についての基礎知識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にデザインの表現の創造活動に取り組もうとしている。(c) ・造形の要素の働きを理解している。(a) ・アクリルガッシュを用いて色彩による明暗の諧調を表現している。(b)
8 9 10	木彫による立体造形	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・テキスト ・参考作品 	20	<ul style="list-style-type: none"> ・形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、材料の特性を生かして表す。 ・表情や動きを捉えて創造的な表現の構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて、材料の特性を生かし創意工夫し主題を追求して創造的に表している。(a) ・対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に主題を生成し、形や質感、量感、重心やバランス、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。(b) ・彫像で表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。(c)
11 12 1 2	二葉祭ポスター制作	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・テキスト ・参考作品 	24	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝えたいイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かし、計画を基に表す。 ・伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや写真、文字の形や色、構成などが感情にもたらす効果や、伝えたいことや場面を、全体のイメージで捉えることを理解している。(a) ・意図に応じて表現方法を工夫し、アクリルガッシュなどの技法や特性を生かし、計画的に見通しをもって表している。(a) ・伝えたいメッセージや場面などを基に主題を生成し、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練っている。(b) ・ポスターのよさや美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫、効果について考え、見方や感じ方を深めている。(b) ・伝えたいメッセージや場面などを効果的にポスターに表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。(c)

令和 7 年度 芸術 科 シラバス

科 目	書道 I	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	東京書籍 書道 I				
補助教材等	プリント、教科担当作成の手本等				

1 学習の到達目標

<p>書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの書に触れ人物や時代背景、書体や筆法などを知り、それを表現しようと試みる。 また、多くの書表現に触れ、表現方法の幅広さを知り、感性を豊かにする。(知識・技能) ・鑑賞したり臨書したりする中で、様々な表現方法や視点があることに気づき、多角的な視野を持って考え表現する力を養う。(知識・技能、思考力・判断力・表現力) ・作品に対する意図を明確に持ち、それを表現するための方法を考え、判断し、表現しようとする姿勢を持つ。(思考力・判断力・表現力) ・授業だけでなく日常生活の中でも積極的に芸術に触れ、多角的な視野を持って物事を捉えようとする姿勢や、自己の内面と向き合って主体的に自己表現する力を身につける。(態度)

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○書道 I では、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の基本を、古典 (中国や日本の過去の優れた書作品) を中心に学びます。書の伝統と文化についての理解を深め、様々な書の技法を習得するよう各自が意欲的に取り組むことが求められます。</p> <p>以下の学習方法を頭に置いて取り組みましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 用具・用材を正しく適切に扱うこと。 ② 正しい用筆法、姿勢を身につけること。 ③ 図版や手本をよく観察・分析できる力を身につけ、特徴を捉えること。 ④ 丁寧に、よく考えて書くこと。 ⑤ 授業時に限らず、日常生活においても書に目を向け関心を持つこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	書道全般や各古典について理解する。 基本的な筆遣いや各古典の筆法を知りそれを用いて書く。 分析的な鑑賞の仕方を身につける。	知識と技能を基に、制作する作品に適した表現方法を模索してそれを表現しようと試みる。	積極的に作品に触れ、鑑賞・臨書する。 知識と技能を基に、改善点を改善しようと試行錯誤する。
主な評価方法	・ 作品 ・ 記述による知識の確認 (プリント、授業内テスト) ・ 制作中の様子	・ 作品 ・ 制作中の様子 ・ プリントへの記述内容	・ 作品 ・ 取り組みの姿勢 ・ 自己評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6 7	書写から書道へ『漢字の楷書』	教科書	28	① 書写から書道へ ② 漢字の成り立ち ③ 用筆法・結構法 ④ ・欧陽詢「九成宮醴泉銘」 ・虞世南「孔子廟堂碑」 ・褚遂良「雁塔聖教序」 ⑤ 文化祭展示作品制作、鑑賞 ⑥ 展覧会出品作品制作	①書写で学んだことを確認し、芸術科書道でどのような学習をするかを理解する(a) 用具・用材、姿勢、執筆法を知る(a) ②文字の成り立ちや変遷を理解する(a) ③楷書の基本的な用筆法、結構法を理解し、その技法を習得する(abc) ④楷書の成立と初唐の三大家を知る(a) 古典の概要や特徴、人物や時代について理解する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 古典を比較鑑賞しそれぞれの特徴を理解する(abc) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) ⑤⑥直観的、分析的に鑑賞する(ab) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) 相互鑑賞し自己評価をする(bc)
8 9	『漢字の書行書』	教科書	10	⑦ 行書の用筆法・字形 ⑧ ・王羲之「蘭亭序」 ・空海「風信帖」 ⑨ 展覧会出品作品制作 ⑩ 校内展示作品制作、鑑賞	⑦行書の用筆法や特徴を理解し、その技法を習得する(abc) ⑧古典の概要や特徴、人物や時代について理解する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 古典を比較鑑賞しそれぞれの特徴を理解する(abc) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) ⑨⑩直観的、分析的に鑑賞する(ab) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) 相互鑑賞し自己評価をする(bc)
10 11	『漢字の書篆刻』	教科書	10	⑪ 名印（陰刻）を彫る	⑪落款の役割と篆刻の用具・用材、手順を知る(a) 辞典を用いて自分の名前の篆書を調べ、正しく印稿を作成する(abc) 用具を正しく扱い、生き生きと彫る(a) 丁寧に押印する(ab)
12	『漢字の楷書』	教科書	8	⑫ ・顔真卿「自書告身」 ・「牛橛造像記」 ⑬ 展覧会出品作品制作	⑫唐の四大家を知る(a) 古典の概要や特徴、人物や時代について理解する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 古典を比較鑑賞しそれぞれの特徴を理解する(abc) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) ⑬直観的、分析的に鑑賞する(ab) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc)
12	『漢字の書隷書』	教科書	2	⑭ 「曹全碑」	⑭隷書の成立と用筆法、特徴を理解し、その技法を習得する(abc) 古典の概要や特徴、人物や時代について理解する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc)

1 2	『仮名の書』	教科書	10	⑮ 仮名の成立 用具・用材、筆遣い 平仮名、連綿、変体 仮名 ⑯ ・伝藤原行成「蓬萊 切」	⑮ 仮名の成立を理解し、用具・用材を知る(a) 平仮名の単体、連綿、変体仮名を知る(a) 基本的な用筆法を理解して書く(abc) ⑯ 古典の概要や特徴、人物や時代について理解 する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 仮名の筆遣いに注意しながら丁寧に臨書する (abc)
2	『漢字の書』		2	⑰ 古典の特徴を応用した創作	⑰ 既習の古典の特徴を応用した二字熟語の創作 作品を制作する(abc)

令和 7 年度 英語科 シラバス

科目	英語コミュニケーション I	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	Crown English Communication I (三省堂)				
補助教材等	Crown English Communication I ワークブック				

1 学習の到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞くことや読むことを通して、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話すこと (発表・やり取り) や書くことを通して、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① まず (辞書を使わずに) 2～3 回黙読し、全体の概要 (内容) をとらえる。 ② 教科書やワークブック、辞書 (電子を含む) を用いて新出単語を確認し意味を覚える。 <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① その日に学習した英文を 2, 3 回音読する。 ② ワークブック等を用いて問題やサマリー (要約) に繰り返し取り組み、内容理解を深める。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙/語法などの基本的な知識を身につけているかどうか。 ・本文内容を理解できているかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文内容について自分なりに要約し伝えているかどうか。 ・本文内容について自分の考えや身近な題材について、英語で表現できるかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文内容について自分なりに要約し伝えようとしているかどうか。 ・本文内容について自分の考えや身近な題材について、英語で表現しようとしているかどうか。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (中間・期末) ・単語テスト ・Performance Test 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (中間・期末) ・Performance Test 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・提出物 ・Performance Test

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	Crown English Communication I(三省堂出版)	全 105	S+V / S+V+C / S+V+O / S+V+O+O/ S+V+O+C / There+V+S 5 文型 現在[過去]完了形・完了進行形 関係代名詞	A : 目標を十分達成できた B : 目標をおおむね達成できた C : さらに努力を要する
7 8 9	Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6	Crown English Communication I(三省堂出版)	全 105	過去完了 (進行形) 分詞構文 関係副詞	A : 目標を十分達成できた B : 目標をおおむね達成できた C : さらに努力を要する
10 11 12	(Lesson 6) Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	Crown English Communication I(三省堂出版)	全 105	関係副詞 仮定法 受動態の完了形	A : 目標を十分達成できた B : 目標をおおむね達成できた C : さらに努力を要する
1 2	(Lesson 9) Lesson 10	Crown English Communication I(三省堂出版)	全 105	受動態の完了形 仮定法過去・過去完了	A : 目標を十分達成できた B : 目標をおおむね達成できた C : さらに努力を要する

令和 7 年度 英語科 シラバス

科目	論理表現 I	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	Vision Quest(Standard)E-Logic and Expression I (啓林館)				
補助教材等	Vision Quest(Standard)E-Logic and Expression I workbook / 総合英語				

1 学習の到達目標

1. 英語の基本的な文法や語法を身に着ける。
2. 目的や場面、状況などに応じた論理的で効果的な発信をすることができる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

【予習】

- ① 授業で扱う単元 (文法項目) を読み、おおよその内容をつかむ。
- ② わからない単語や表現の意味を前後関係から推測した後、辞書と参考書 (総合英語) でわからない単語や表現を調べる。
- ③ 練習問題を確認し、自分なりに解く (わからないところをはっきりさせておく)。

【復習】

- ① その日に学習した問題をノートに繰り返す。
- ② 間違えた問題をノートに整理する。
- ③ 重要単語や表現を英語で言えて書けるように繰り返し練習する。
- ④ 付属のワークブックに取り組む。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・語彙語法、文法などの基本的な知識を身につけているかどうか。	・目的や場面、状況などに応じて理論的に考え、表現しているかどうか	・目的や場面、状況などに応じて理論的に考え、表現しようとしているかどうか
主な評価方法	・定期考査 (中間・期末) ・小テスト	・定期考査 (中間・期末)	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学習内容（文法内容）	評 価 規 準
4 5 6	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	Vision Quest English logic and expression I（啓林館）	18	<ul style="list-style-type: none"> ・（自己）紹介（文の種類） ・学校生活（文型と動詞） ・旅行・観光（時制） 	<p>A：目標を十分達成できた</p> <p>B：目標をおおむね達成できた</p> <p>C：さらに努力を要する</p>
7 8 9	Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7	Vision Quest English logic and expression I（啓林館）	17	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味・関心（完了形） ・将来・進路（助動詞） ・日常生活（受動態） ・交流・交際（不定詞） 	<p>A：目標を十分達成できた</p> <p>B：目標をおおむね達成できた</p> <p>C：さらに努力を要する</p>
10 11 12	(Lesson 7) Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10	Vision Quest English logic and expression I（啓林館）	18	<ul style="list-style-type: none"> ・交流・交際（不定詞） ・スポーツ・健康（動名詞） ・メディア・コミュニケーション（分詞） ・文化・異文化理解（関係詞） 	<p>A：目標を十分達成できた</p> <p>B：目標をおおむね達成できた</p> <p>C：さらに努力を要する</p>
1 2	(Lesson10) Lesson 11 Lesson 12	Vision Quest English logic and expression I（啓林館）	17	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・異文化理解（関係詞） ・国際問題（比較） ・社会問題（仮定法） 	<p>A：目標を十分達成できた</p> <p>B：目標をおおむね達成できた</p> <p>C：さらに努力を要する</p>

令和 7 年度 家庭科 シラバス

科目	家庭基礎	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	Agenda 家庭基礎				
補助教材等	デジタル版最新生活ハンドブック、Agenda 家庭基礎学習ノート				

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する脂質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に着けるようにする。【知識及び技能】

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う【思考力・判断力・表現力】

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。【学びに向かう態度・人間性】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○自分の生活や環境について振り返り、社会とのつながりを確認していきましょう。

○授業で身につけた知識や技術を日常生活の中で活かしましょう。

○実験実習は積極的に取り組み、まとめをしっかりと行いましょう。

○課題の完成度を高めるよう工夫し、提出物は期限内に行いましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらにかかわる技能を身につけている	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 作品、レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 作品、レポート 発表等 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言内容 実習時の取り組み 生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	生活設計 第1章 自分・家族・ -多様化した 社会に生き る-	教科書 学習ノート デジタル版資 料集	6	1. これからをどう生き るか 2. 青年期の自立 3. 社会の変化と家族 4. 家族・人生・生き方 と法律 5. 多様な課題を抱え る家族・家庭	・自らのこれまでの生き方を探ったうえで、主体的な生活設計の検討ができる(b)(c) ・個人の生き方や性のあり方など多様性の尊重について理解している(b)(c) ・青年期の意味と自立への課題について理解し、今後の人生選択に関係する基礎的・基本的な知識を身につけている(a) ・自立の意味を理解しており、青年期の課題としてとらえ、現在の自分の課題をみいだすことができる(b)(c) ・家族・家庭生活のあり方に関心を持ち、男女が協力して家庭や社会を築くことの重要性を考えようとしている(a)(b) ・家族法の内容と今後の課題について理解したうえで、多様な生き方を尊重し、男女が協力して社会を築くという考え方を身につけている(a)(b) ・家族や個人の抱える社会課題に関心を持ち、課題解決に向けた取り組みを調べることができる(b)(c)
5	2章子ども -子どもと生 きる-		8	6. 持続可能な生活と 仕事 7. 多様な生き方を保 証する社会へ 1. 子どもと出会う 2. 子どもの心とからだ の発達 3. 子どもの生活	・多様な生き方・パートナーシップの保障、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた家事・職業のあり方などについて理解し、ライフスタイルをめぐる問題やワークルールなどについての基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(b) ・理想の生き方やパートナーシップのあり方について、現在の社会的な問題や多様性の尊重なども理解したうえで、将来の生活を想定した生活設計にいかすことができる(a)(b) ・子どもや子育てに関心を持ち、子どもを取り巻く地域の人間として、あるいは将来の親として、子どもが健やかに成長するためにはどうしたらいいのかを、意欲的に考えようとする(b) ・子どもの身体的・精神的発達について理解している(a) ・子どもの生活に関わる基礎的な知識やその援助の方法などを理解している(a)
6			8	4. 子どもと遊び 5. 子どもの育つ環境 と社会 6. 子どもの権利と福 祉 7. 子どもとともに育つ	・自分の体験から遊びの系統を理解できる(c) ・子育てに関する制度などを理解し、子どもを取り巻く環境の変化と関連させて考えることができる(a)(b) ・子どもの権利条約の内容を理解し、子どもの意見尊重、子どもの最善の利益の重要性を理解して

					<p>いる(a)(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で次世代育成に取り組むことへの重要性を理解している(a)(b)
7 8 9	5章食生活 -楽しく安全に食べる-		16	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食べることを通して 2. 栄養と食品 3. 栄養素のはたらきと食品の栄養 4. 食品の選択 5. 食品の取り扱い 6. 食品の安全性 7. 豊かな食生活の背景には 8. 食事をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活や食物・食品に関心を持ち、自らの食生活について、健康を維持するだけでなく、精神的な豊かさを向上させる意味もあわせ持つことを理解し、そのための知識や技術の習得、改善のための考察や行動に意欲的に取り組もうとする(a)(b) ・バランスのよい食生活の重要性を理解し、エネルギーや食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすについて理解している(a) ・栄養素の種類とその特徴に関する知識を習得し、またそれらを多く含む食品の特徴を理解している(a)(c) ・食品の表示に関する基本的な知識を身につけている(a)(b) ・食品の保存、食中毒、食品添加物等の基本的な知識を身につけている(a)(b) ・安全性、環境などの多様な視点を持ち、現代の食生活の問題点および課題を見出し、思考を深めている(a)(b) ・自らの食生活について、栄養、環境、食品の選択、経済性などの視点から、問題点・課題と解決の方向性をみいだすことができる(b)(c) ・調理実習において、調理のための基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて、献立を考え、食品を選び、調理をするなどの行動ができる(c)
10 11	6章衣生活 -選んで着る-		14	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣生活を見直す 2. 衣服の機能と着想 3. 衣服の材料と成り立ち 4. 衣服の管理 5. 安心して衣服を着るために 6. いろいろな人が着る衣服 7. これからの衣服 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と衣服に関心を持ち、自らの衣生活をより豊かで充実したものにするために、知識や技能の習得に意欲的に取り組もうとする(a) ・衣服の機能について理解し、TPO に応じた適切な衣服の選択ができる(a)(b) ・用途や着用目的に合った被服材料の選択や管理ができる(a)(b) ・衣服の性質を理解した上で適切な洗濯の方法を選択する力を身につけている(a) ・衣服を着る意味、服装についての自己決定力の意味を理解し、個性豊かで健康的な衣生活を送るために必要な、衣服の材料・管理方法などについての基礎的・基本的な知識を身につけている(a) ・上記の課題解決のために必要な衣服の管理・廃棄の方法を判断・選択する力を身につけている(a)(b) ・衣服に求められる特徴は、年齢や障がいの有無などにより異なることを理解する。また、だれもが

					<p>快適な衣生活を営むためのさまざまなデザインを理解している(a)(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの衣生活について、流行と個性、環境、健康、安全などとの関係で、問題点・課題をみいだすことができる(a)(b)
12	7章住生活 -人間らしく 住む-		6	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住まいの選択 2. ライフスタイルと住まい 3. さまざまな家族・さまざまな住まい 4. 住まいの安全・安心 5. 住環境の安全・安心 6. 環境共生の今・昔 7. 住まいづくり・まちづくりへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいと住まい方、地域に関心を持ち、自らの住生活を安全で人間らしい充実したものにするために必要な知識・技術を身につけている(a) ・ひとり暮らしのための住まいの調査から、間取りや立地などの問題点を読み取ることができる(b) ・間取りを理解したうえで、適切な住まいについて考える力を身につけている(a)(b) ・ライフステージに応じた住まいの変化について理解している(a)(b) ・健康で安全な住まい・住まい方をするために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている ・暮らしにあった住まいの種類や間取り、健康で安全・快適な住環境や地域環境についての基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(b)(c) ・伝統的な住まいの工夫や、環境負荷の少ない住まいの工夫について理解している(a)(b) ・自らの住まいと地域について、生活上の課題や住要求、健康・安全・快適性などの面から、問題点・課題をみいだすことができる(b) ・問題点・課題の解決のために必要な、住まいの選択・管理・改修の方法、地域社会への関わり方を判断する力を身につけている(c)
1	8章消費・環境 -消費社会 を生きる-		6	<ol style="list-style-type: none"> 1. お金の管理とライフデザイン 2. 暮らしと経済のかかわり 3. 意思決定と契約 4. 購入方法の多様化 5. 消費者問題 6. 消費者保護 7. 持続可能な社会をめざして(1) 8. 持続可能な社会をめざして(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの消費行動のなかでの問題点や家計管理のポイントを、社会や環境との関わりも含め、みつけることができる(a)(b) ・家計の管理、家庭経済と国民経済の関わりについて基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(b) ・問題解決のために、情報の選択・発信や購入の選択など、自ら主体的に判断し意思決定する力を身につけている(b)(c) ・契約の原理と消費者信用の内容を理解しており、支払い方法の適切な判断ができる(a)(b) ・消費生活の問題と課題を見出し、その解決をめざして考えを深めている(a)(b) ・消費をめぐるトラブルに直面した場合の解決方法や手段を身につけている(a)(b)(c) ・大量消費社会の諸課題について理解し、持続可能な社会の実現をめざして考えを深めている(a)(b)(c) ・自らの生活や消費行動の環境への影響に関心を持ち、持続可能な社会の実現に向けて主体的で責任ある行動をとろうとする(b)(c)

			9. 消費者市民社会	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活や消費行動のなかでの問題点や課題を、環境との関わりで見つけることができる(b) ・自らの消費行動と社会との関係や消費者情報に関心を持ち、社会的影響や環境への負荷などに配慮しながら、主体的で責任ある消費行動をとろうとする(c) ・家庭科の学習で学んできたことを生活設計に活かすことができる
2 3	3章高齢者 -高齢者と生きる-		生活設計—自分の未来を描く—	
	4章社会福祉—支えあい共に生きる—		6	<ul style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を知る 2. 高齢社会の現状と課題 3. 高齢者の尊厳と自立の支援 4. 高齢者を支える制度としくみ
			<ul style="list-style-type: none"> 1. 生活を支える福祉と社会保障制度 2. 共生社会の実現に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に対する自分の現在のイメージなどについて意見や考えをまとめられる(b) ・高齢期の問題について、ライフコースのなかで自らが将来直面することとして、高齢者の生活上や福祉の問題を考えることができる(a)(b) ・高齢者の尊厳や人権について理解し、高齢者の生活支援に関する基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(c) ・高齢者の心身・生活の特徴や高齢社会の現状、福祉制度などを理解し、それらについての基礎的・基本的知識が身につけている(a)(b) ・貧困や障害者の現状、社会保障制度とその他の支援の内容を理解し、それについての基礎的・基本的知識を身につけている(a)(b) ・共生社会のあり方とノーマライゼーションなどの基本概念を理解し、それらについての基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(b)
	ホームプロジェクト		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中から課題を見つけ、自ら課題解決のために行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習で学んできたことを活かし、課題解決のための過程を組み立てることができるまたそれを発表することができる(b)(c)

令和7年度 情報科 シラバス

科目	情報 I	単位数	2	履修学年・クラス(講座)	I 学年
使用教科書	日本文教出版 情報 I				
補助教材等	日本文教出版 サブノート,Python(モナカエデュケーション),P スタディ、P+				

1 学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 教科書、サブノート、および1人一台端末を活用して座学と実習を行う
- 協働作業を通じてコミュニケーション能力の向上をはかる
- オンライン授業の形態も利用しながら多様な授業を体験・実践する
- 日々の授業課題をぬかりなくやる

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
主な評価方法	・ワークシート ・反転学習(P スタディ) ・考査 など ・	・ワークシート ・作業ファイル ・話し合い ・発表 など	・振り返りシート ・行動観察 など ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点:(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4月	序章 第1節 なぜ情報について学ぶのか 第2節 「情報 I」で学ぶこと 第3節 学習の前に確認しよう	教科書 サブノート P スタディ	6	<ul style="list-style-type: none"> ■情報について学ぶ意義を理解する ■「情報 I」の学習をはじめる前に、中学校までの学習内容を確認する ■「情報 I」で学ぶ内容を理解する ■情報の特性を考える 	(a)情報について学ぶ意義を理解している。 (b)問題解決に役立つ情報や情報技術の利用例を考えることができる。(c)社会における問題解決と情報について学ぶ意義を関連づけて考えようとしている。 (a)「情報 I」で学ぶ内容を理解している。「情報社会の問題解決」の考え方が、「コミュニケーションと情報デザイン」、「コンピュータとプログラミング」、「情報通信ネットワークとデータの活用」の学習に生かされることを理解している。 (b)社会の状況を踏まえて、各学習テーマに

				<p>対応した問題の例を考えることができる。</p> <p>(c)「情報Ⅰ」で学ぶ学習内容と社会における問題解決を関連づけてとらえようとしている。</p> <p>(a) コンピュータの基本的な扱い、情報セキュリティ、情報モラルに関する既習事項について理解している。基礎的なセキュリティ対策ができる技能を身につけている。</p> <p>(b)教科書のチェックリストを利用して、既習事項に対する到達度を自己評価できる。現在の自分の知識や技能のうち不足しているところを補う方法を考えることができる。</p> <p>(c) 既習事項の到達度を踏まえて、すべての項目において自信が持てるようになろうとしている。</p>	
5月	<p>第1章</p> <p>第4節 法の重要性と意義—知的財産権</p> <p>第5節 法の重要性と意義—個人情報</p> <p>第6節 情報社会と情報セキュリティ</p> <p>第7節 情報技術の発展による生活の変化</p>	<p>教科書</p> <p>サブノート</p> <p>Pスタディ</p>	8	<p>■著作権侵害について考える</p> <p>■個人情報について考える</p> <p>■サイバー犯罪について考える</p> <p>■ソーシャルメディアの適切な活用方法を身につける</p> <p>■情報技術の発展と社会の変化を考える</p>	<p>(a)情報社会における著作権侵害について理解している。情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技能を身につけている。</p> <p>(b)目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えることができる。情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考えることができる。情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。</p> <p>(c)情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案を自ら評価し改善しようとしている。・情報モラルに配慮し情報社会に主体的に参画しようとしている。</p> <p>(a)知的財産権、産業財産権、著作権について理解している。</p> <p>(b)情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考えることができる。</p> <p>(c)情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。</p> <p>(a)著作物と著作権について理解している。著作権者の権利を守りながら著作物を利用するための方法について理解している。個人情報とは何かを理解している。個人情報保護法について理解している。サイバー犯罪の3分類について理解できる。</p> <p>・適切なパスワードの設定について理解できる。サイバー犯罪の3分類について理解でき</p>

				<p>る。さまざまな事例・事件についての問題点や対処法を理解できる。マルウェアが侵入してしまう原因について理解できる。</p> <p>・マルウェアが起こす問題や対処法について理解できる。ソーシャルメディアとは何か、ソーシャルメディアにはどのような特徴があるか理解できる。ソーシャルメディアのメリットについて理解している。ソーシャルメディアで気をつけることについて理解している。</p> <p>(b) 情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考えることができる。個人を特定できる情報とは何か説明できる。個人情報を提供すべき場面とそうでない場面を判断できる。アカウントの乗っ取りにあった場合、その後どのような影響があるか考えることができる。フィッシングメールと疑われるメールが届いた場合、どのように行動すればよいか判断できる。情報セキュリティを確保するための個人の取り組みについて考えることができる。情報セキュリティを確保するための個人の取り組みについて考えることができる。架空請求、ワンクリック詐欺、フィッシング詐欺を誘導する手法を理解し、適切に判断できる。日々の生活の中でソーシャルメディアにどのように関わっているか理解できる。ソーシャルメディアでのトラブルを理解し、その原因の分析と解決をすることができる。ソーシャルメディアでのやり取りですれ違いや誤解が起きる場面が判断できる。ソーシャルメディアに発信する情報について、受け取り側の気持ちになって情報発信することができる。他者や自分の個人情報やプライバシーに配慮して情報発信できる。利用のルールや健康に配慮してソーシャルメディアを活用できる。</p> <p>(c) 情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。個人情報保護法の重要性と意義について理解し、自分だけでなく他者の個人情報の取り扱いにも配慮して行動しようとしている。情報社会の進展に伴う、サイバー犯罪などの問題に対し、当事者意識を持って対策をしたり、対応したりしようとしている。情報セキュリティを確保するために、個人がすべきことについて取り組もうとしている。不正なソフトウェアや財産を狙う犯罪について理解を深め、情報機器や情報通信ネットワークを安全に利用しようとしている。他者の個人情報や</p>
--	--	--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

					<p>プライバシー、人権を尊重してソーシャルメディアを利用しようとしている。健康に配慮して、ソーシャルメディアの適切な活用をしようとしている。情報発信の際に気をつけるべきことに配慮して、望ましいソーシャルメディアの利用を心がけようとしている。情報社会を構成する一人として責任ある情報発信をしようとしている。</p>
6月	<p>第8節 情報技術の発展による社会の変化</p> <p>第1章</p> <p>第1節 情報の特性</p> <p>第2節 メディアの特性</p> <p>第3節 問題解決の考え方</p> <p>第2章</p> <p>第1節 メディアとコミュニケーション</p> <p>第2節 情報のデジタル化</p> <p>第3節 情報デザイン</p> <p>第4章</p> <p>第3節 データの活用</p>	<p>教科書</p> <p>サブノート</p> <p>Pスタディ</p>	8	<p>■情報技術の発展と社会の変化を考える</p> <p>■メディアの特性を考える</p> <p>■問題解決の考え方を身につける</p> <p>■メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する</p> <p>■情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する</p> <p>■アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する</p> <p>■コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する</p> <p>■情報デザインの考え方を知る</p> <p>■情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する</p> <p>※問題解決の流れと発想法等の各種手法の使い方</p> <p>※文書作成、プレゼン、表計算ソフトの基本的な操作方法</p>	<p>(a)センサ技術やビッグデータ解析によってAIやロボットの技術が支えられていることを理解できる。Society 5.0を支える技術について理解できる。Society 1.0から5.0への社会の変遷について理解できる。</p> <p>(b)AIやロボットが私たちの生活に及ぼす影響について調べることができる。AIやロボットを活用する場面、そうでない場面を判断することができる。情報デザインやプログラミング、データサイエンスの学びがSociety 5.0のどの部分と関連するか判断できる。社会の要請と技術が調和する場面を想定し、価値創造型の問題解決ができる。</p> <p>(c)AIやロボットのメリットやデメリットを理解し、どのように活用することで、わたしたちの生活を豊かにできるか考えようとしている。Society 5.0で求められる学びについて理解し、意欲的に学ぼうとしている。</p> <p>(a)情報とデータの違いについて理解している。情報の特性について理解している。メディアの3つの特性とそれぞれのメリット・デメリットについて理解している。メディアが人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解している。問題を発見する技能を身につけている。問題解決の一連の流れにおいて、それぞれの過程で必要になることを理解している。問題解決の流れについて理解している。情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技能を身につけている。</p> <p>(b)情報の特性を観点に分けて考えることができる。具体的な特性を理由とともに説明できる。目的や状況に応じて、適切なメディアを選択することができる。理由とともにメディアの捉え方を説明することができる。目的や状況に応じて、問題を発見・解決する方法について考えることができる。目的や状況に応じて、情報を適切に活用して問題を発見し、解決のためのアイデアについて考えることができる。</p> <p>(c)情報の特性が果たす意義や、留意点に気</p>

				<p>づき、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。メディアの特性が果たす意義や、留意点に気づき、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。問題の発見・解決について主体的に取り組もうとしている。解決する過程や解決案を改善しようとしている。情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案を自ら評価し改善しようとしている。</p> <p>(a) コミュニケーションの手段の発達について理解している。メディアの発達により生じる課題の原因を理解している。メディア・リテラシーの必要性について理解している。コミュニケーションの形態について理解している。インターネットの特性について理解している。メディアによって表現方法が異なることを理解している。パケット通信技術について理解している。ブロードバンド、携帯電話網の無線通信技術の発展について理解している。インターネットが普及したことにより情報格差が生まれたことについて理解している。ソーシャルメディアのしくみについて理解している。公開範囲の設定を限定公開に変更する方法について理解している。無料でサービスを利用できる理由について理解している。</p> <p>(b) メディアが発達したことにより、便利になったことと課題について考えることができる。インターネットの特性を踏まえ、情報発信時に誹謗中傷や人権に配慮できているか判断できる。情報の信憑性を判断し、内容の正しさの見極めができる。目的に応じたメディアの選択ができる。通信が高速化したことにより、どのようなことができるようになったか考えることができる。情報格差の問題点について考えることができる。自分の発信する情報がどこまで影響があるか考え、適切に発信することができる。</p> <p>(c) メディアの種類を振り返り、自らの学習を調整しようとしている。メディアが発達したことにより生じた課題について、主</p>
--	--	--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

				<p>体的に考えようとしている。普段使っているコミュニケーション手段について、その特性を積極的に考えようとしている。実際の事例を積極的に調べ、考えを深めようとしている。5G の普及により実現されるサービスの調査に粘り強く取り組み、考えを深めようとしている。情報格差の問題点、解消するアイデアについて考えようとしている。スマートフォンなどの利用について考え、理解を深めようとしている。ソーシャルメディアの公開設定を確認し、理解しようとしている。</p> <p>(a) アナログとデジタルの違いについて理解している。2進法・10進法・16進法の相互変換について理解している。文字コードのエンコーディングについて理解している。ビットマップフォントとアウトラインフォントの違いを理解している。ランレングス法とハフマン符号化について理解している。可逆圧縮と非可逆圧縮について理解している。音のデジタル化の A/D 変換について理解している。画像のデジタル化のプロセスについて理解している。動画のデジタル化のしくみを理解している。音、画像、動画のデータ量を求める計算ができる。</p> <p>(b) アナログとデジタルのそれぞれの利点と欠点について考えることができる。ビットマップフォントとアウトラインフォントの違いについて考えることができる。自分でつくったデータを圧縮し、他者がつくった圧縮データを展開することができる。サンプリング周波数や量子化ビット数が変化すると、音がどうなるか説明することができる。解像度や階調を変えると、何がどのように変わるか説明することができる。フレーム内圧縮とフレーム間圧縮のデータ量の違いを説明することができる。フレームレートが増えたと見え方がどう変わるか説明できる。これまで学んだデジタル化や圧縮のしくみを説明できる。音、画像、動画のデータの特徴に応じた適切な計算式を判断できる。</p>
--	--	--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

				<p>(c)アナログとデジタルのデータを扱う身近なものを積極的に探し、理解を深めようとしている。文字のエンコーディングやデコーディングについて、興味を持って課題に取り組もうとしている。圧縮と展開の活動に積極的に取り組み、理解しようとしている。自分のコンピュータやスマートフォンに入っている音を積極的に探し理解を深めようとしている。ディスプレイがどのようなしくみで画像を表示しているか、積極的に調べようとしている。撮影した写真を連続して表示し、その内容から動画のしくみを理解しようとしている。データを求める計算に積極的に参加している。</p> <p>(a)情報デザインの意味について理解している。情報デザインの作業手順について理解している。問題発見の重要性を理解している。デザインの要件に必要な事項を理解している。試作品を作成するソフトウェアの操作の技能を身につけている。評価の手法の種類や得られる情報について理解している。</p> <p>(b)アートと情報デザインの違いを考えることができる。情報デザインの考えをもとに、伝えたい情報を表現することができる。身近な問題を考え、表現することができる。情報デザインにより解決できそうな問題を選ぶことができる。メディアにあった表現を考えることができる。要件に基づいてラフ・試作品を表現できる。適切な評価の手法を選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の結果から、試作品の改善点を考えることができる。 ・改善点を実際のデザインとして表現できる。 <p>(c)情報デザインのカで問題解決に取り組もうとしている。グループの話し合いに積極的に関与しようとしている。問題を自分事として考えようとしている。要件定義の話し合いに積極的に関与しようとしている。ラフをつくる際に、積極的にアイデアを出し、他者の意見を尊重しながら問題を解決しようとしている。評価、改善の取り組みの重要性を理解し、より良いものをつくろうとしている。実際の運用に積極的に関わろうとしている。</p>
7月	第4章 第3節 データの活用	教科書 サブノート Pスタディ Python	6	<ul style="list-style-type: none"> ■データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する ■数値データ、テキストデータの分析方法を理解する <p>(a) データ分析の手順について理解している。データの収集についてさまざまな方法があることを理解している。量的データ、質的データの違いについて理解している。数値データの分析手法について理解している。テキストデータの処理方法について理解している。Web サ</p>

					ービスを利用しないテキストデータの分析方法について理解している。オープンデータを取得し、データ分析しやすいよう加工する技能を身につけている。問題解決のための手段に応じた表現をする技能を身につけている。
8月	第4章 第3節 データの活用	教科書 サブノート Pスタディ Python	2	<ul style="list-style-type: none"> ■データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する ■数値データ、テキストデータの分析方法を理解する <p>※オープンデータを活用して地域の課題を発見する</p> <p>※解決策を検討、実施し、振り返る</p> <p>※アンケート調査によるデータの収集方法</p> <p>※量的データの分析手法</p> <p>※統計的検定</p>	<p>(b) データ収集方法によるメリット、デメリットを判断し、適切な方法で実習のためのデータ収集ができる。データ分析に必要なオープンデータをインターネットから取得し、データ分析が行いやすいようデータの整理ができる。身のまわりのデータを分類することができる。表計算ソフトウェアを利用して数値データを分析・表現することができる。適切な処理結果を得るため、どのようにデータクレンジングすればよいか考えることができる。テキストマイニングの結果からデータの特徴を抽出できる。データ分析の結果から読み取れる情報を判断できる。解決策を発表し合い、お互いの意見を盛り込んだ内容に改善できる。他者に効果的に伝達できるように表現することができる。</p> <p>(c) データの収集や整理に粘り強く取り組み、試行錯誤を通じて改善しようとしている。数値データの分析は身のまわりのどのような場面で活用されているか、観察しようとしている。因果関係や相関関係のあるデータに注目し、そのような関係性がなぜ導き出されるのか考えようとしている。実際のテキストデータから特徴を抽出しようとして試行錯誤し、改善しようとしている。地域の問題の現状を分析しようとしている。問題解決のための協働作業に、積極的に参画しようとしている。</p>
9月	総合実習Ⅰ プレゼンテーショングループ実習	教科書 サブノート Pスタディ	8	<ul style="list-style-type: none"> ■前期のまとめ実習 ■グループで協働して答えのないテーマに対するアプローチを探究し、プレゼンテーションにて発信する 	<p>(a) 問題を発見する技能を身につけている。問題解決の一連の流れにおいて、それぞれの過程で必要になることを理解している。</p> <p>(b) 目的や状況に応じて、問題を発見・解決する方法について考えることができる。</p> <p>(c) 問題の発見・解決について主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・解決する過程や解決案を改善しようとしている。グループの協働作業に積極的に関与しようとしている。</p>
10月	第3章 第1節 コンピュータのしくみ 第2節 アルゴリズムとプログラム	教科書 サブノート Pスタディ Python	8	<ul style="list-style-type: none"> ■コンピュータの基本的な構成を理解する ■CPUによる演算のしくみを理解する ■アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ■アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ■変数、データ型、演算子、関数などプログラ 	<p>(a) コンピュータの構成要素やデータの制御、データの流れを理解している。ソフトウェアの種類と、OSの役割について理解している。CPUのしくみとその役割について理解している。メインメモリの役割について理解している。各論理回路のしくみについて理解している。論理回路を組み合わせたものから自分で真理</p>

			<p>ムを構成する要素を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する ■グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する 	<p>値表を作成する技能を身につけている。2 進法の表現方法について理解している。2 の補数の考え方について理解している。浮動小数点数の考え方について理解している。</p> <p>(b) コンピュータを構成する各装置とデータの流れと制御の流れを表現し、説明することができる。ハードウェアの 3 つの要素がどのような働きをするか説明できる。OS の役割について、イラストを描き、説明することができる。GUI と CUI の操作を通して、それぞれのメリットとデメリットを説明できる。コンピュータやスマートフォンの製品ページを見て、ハードウェアの比較ができる。よりよい性能の製品を選ぶことができる。論理回路を組み合わせたものから自分で真理値表を作成できる。2 の補数を表現できる。浮動小数点数を表現できる。どのような場合に誤差が生じるか考えることができる。</p> <p>(c) スマートフォンの内部をインターネットで調べる活動や、インタフェースを確認する活動に積極的に取り組もうとしている。OS の種類を探る活動に積極的に取り組もうとしている。コンピュータのスペックを調べる課題に積極的に取り組もうとしている。自ら真理値表を考え作成しようとしている。理解を深めるために、2 進法のさまざまな計算に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>(a) アルゴリズムの意味やプログラムとの関係を理解している。アルゴリズムの効率性の意味を理解している。アルゴリズムの基本構造について理解している。アルゴリズムを表現する図や表について理解している。プログラムの構成要素である変数、データ型、演算の意味や種類を理解している。プログラムの構成要素である関数、ライブラリ、API について理解している。</p> <p>(b) 簡単な事例について、コンピュータに処理させる手順を文章化できる。ある処理について、複数のアルゴリズムを考え、効率の高いものを判断できる。基本構造を組み合わせ、アルゴリズムを構造化することができる。アルゴリズムを図や表で表現し、アルゴリズムを可視化できる。演算例をもとにして、プログラミングの構成要素について考え、正しい結果を出力することができる。関数、ライブラリ、API の具体例から、効果的な利用法を考えることができる。</p>
--	--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

					(c)身のまわりにあるコンピュータで処理できるような事例を自ら考え、理解を深めようとしている。処理対象を自分で考え、アルゴリズムを構造化、可視化しようとしている。対象を自分で考え、既存のプログラムを改良することで、プログラミングの理解を深めようとしている。学んだ知識をもとにして、具体的な事例を自分で探し、問題を解決しようとしている。
11月	第2節 アルゴリズムとプログラム 第3節 モデル化とシミュレーション	教科書 サブノート P スタディ Python	6	<ul style="list-style-type: none"> ■アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ■アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ■変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する ■配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する ■グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する ■モデル化とシミュレーションの考え方を理解する ■プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする <p>※Python の基本</p> <p>※感染症の感染モデルを作成し、シミュレーションを行う</p> <p>※ワクチンを接種する場合としない場合の違いを明らかにする</p>	<p>(a)プログラムとデータの関係について理解している。データ構造、配列について理解している。プログラミングによってコンピュータを活用する技能を身につけている。乱数について理解している。プログラミングによってコンピュータを活用する技能を身につけている。2次元配列について理解している。データの交換方法について理解している。データの並べ替え方法について理解している。</p> <p>(b)プログラムの中のデータ(配列)を表現したり、自分でアレンジしたりすることができる。プログラムをフローチャートで表現することができる。プログラムの中身を理解し、目的に応じて自分でアレンジすることができる。プログラムの中身を理解し、目的に応じて自分でアレンジすることができる。2次元配列を利用してプログラムを改良することができる。プログラムの中身を理解し、目的に応じて自分でアレンジすることができる。</p> <p>(c)身近な問題の解決にプログラムを積極的に活用しようとしている。プログラムの結果をもとに試行錯誤しながら改善しようとしている。プログラムの結果をもとに試行錯誤しながら改善しようとしている。身近な問題の解決にプログラムを積極的に活用しようとしている。プログラムの過程・結果を粘り強く評価、改善し、理解を深めようとしている。</p> <p>(a)社会や自然などにおける事象をモデル化する方法について理解している。モデル化とシミュレーションの手順について理解している。モデル化とシミュレーションの手順について理解し、モデルを使ってシミュレーションを行う技能を身につけている。モデル化とシミュレーションの手順について理解し、モデルを使ってシミュレーションを行う技能を身につけている。シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解している。</p> <p>(b)問題解決の場面に応じて、適切なモデル</p>

				<p>を選択し表現することができる。目的に応じたモデルを表現することができる。プログラムによるシミュレーションのメリットとデメリットについて説明することができる。プログラムを用いて、目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い、その過程を評価し改善することができる。プログラムを用いて、目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い、その過程を評価し改善することができる。身のまわりの事象をモデルとして表現することができる。モデルをプログラムで表現し、シミュレーションを行うことができる。</p> <p>(c)身近な問題を解決するためのモデル化に、積極的に取り組もうとしている。問題解決の結果を振り返り改善しようとしている。シミュレーションの結果をもとに試行錯誤しながら粘り強く評価し改善しようとしている。シミュレーションの結果をもとに試行錯誤しながら粘り強く評価し改善しようとしている。シミュレーションの結果をもとに、モデルを修正する改善を繰り返し、より良い検証結果を得ようとしている。</p>	
12月	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ	教科書 サブノート Pスタディ	6	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータネットワークの構成を理解する ■ データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する ■ 暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する 	<p>(a)機器どうしを情報通信ネットワークで接続するしくみを理解している。情報通信ネットワークを構成する要素とその役割を理解している。無線 LAN と有線 LAN の接続形態について理解している。プロトコルのしくみについて理解している。IP の役割と IP アドレスについて理解している。TCP と UDP、HTTP の役割について理解している。ドメイン名と DNS、電子メールのプロトコルについて理解している。情報セキュリティに求められる3つの要素について理解している。認証技術、OS やアプリのアップデートの必要性を理解し、適切に使用・実行する技能を身につけている。共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式について理解している。デジタル署名やデジタル証明書、通信されるデータを暗号化するプロトコルのしくみとその必要性について理解している。身のまわりにある情報システムについて理解している。データベースとは何か、またそのメリットについて理解している。DBMS の役割を理解し必要性について意識している。</p> <p>(b)目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける構成要素を選択することができる。有線 LAN と無線 LAN を状況によって使い分け、小規模なネットワークを設計することができる。コンピュータネットワークでどのように情報がやり取りされているか説明することができる。</p>
1月	第2節 情報システムとデータベース 総合実習 2 Web サイト作成	教科書 サブノート Pスタディ Pプラス	6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報システムが社会をどのように支えているか理解する ■ データベースの役割について理解する ■ 共通テストの問題に挑戦 	<p>(a)機器どうしを情報通信ネットワークで接続するしくみを理解している。情報通信ネットワークを構成する要素とその役割を理解している。無線 LAN と有線 LAN の接続形態について理解している。プロトコルのしくみについて理解している。IP の役割と IP アドレスについて理解している。TCP と UDP、HTTP の役割について理解している。ドメイン名と DNS、電子メールのプロトコルについて理解している。情報セキュリティに求められる3つの要素について理解している。認証技術、OS やアプリのアップデートの必要性を理解し、適切に使用・実行する技能を身につけている。共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式について理解している。デジタル署名やデジタル証明書、通信されるデータを暗号化するプロトコルのしくみとその必要性について理解している。身のまわりにある情報システムについて理解している。データベースとは何か、またそのメリットについて理解している。DBMS の役割を理解し必要性について意識している。</p> <p>(b)目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける構成要素を選択することができる。有線 LAN と無線 LAN を状況によって使い分け、小規模なネットワークを設計することができる。コンピュータネットワークでどのように情報がやり取りされているか説明することができる。</p>

				<p>る。Web ブラウザと Web サーバのやり取りを説明できる。電子メールのしくみを説明できる。認証技術のしくみを知り、適切な使用を判断できる。ファイアウォールにおけるパケットフィルタリングの機能について説明できる。共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違いや、それぞれのしくみを説明することができる。公衆無線 LAN や Web ブラウザの危険を予測でき、安全・安心に利用するか、場合によっては利用しない選択ができる。情報システムを構成する技術が、各種分野で利用されていることを考えられる。未来の情報システムについて具体的にイメージできる。各情報システムから得られる情報について調査し、どのような分野に応用されるか考えることができる。データモデルの違いを考え、データモデルの種類に応じて設計できる。DBMS の種類について長所・短所をまとめられる。非構造化データが実際に利用されている例がまとめられる。</p> <p>(c)情報通信ネットワークに興味を持ち、主体的に活用しようとしている。情報通信ネットワークを適切かつ効果的に活用しようとしている。情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報通信ネットワークのしくみを理解しようとしている。情報通信ネットワークを使うときに、目的や方法に応じて使用されているプロトコルやドメイン名を理解しながら活用しようとしている。パソコンやスマートフォンの OS やアプリを最新の状態に保ち、安全に使用しようとしている。情報セキュリティに配慮して、情報社会に主体的に参画しようとしている。現状活用している情報システムを知ること、普段気づいていない情報システムについても主体的に調べようとしている。未来の情報システムを想像しようとしている。本授業で扱う調査内容について理解し、主体的に調査に取り組んでいる。情報システムで DBMS が利用されている活用例を、主体的に調べている。</p>
2月	総合実習 2 Web サイト作成	教科書 サブノート P スタディ	6	<p>■年間のまとめ ■共通テストの問題に挑戦</p> <p>※伝えたい情報を伝えるためにその方法を考える ※Web サイトを設計し、試作、評価する ※ Web サイトの設計, HTML, CSS, JavaScript の基礎 など</p> <p>(a)情報デザインの意味について理解している。デザイン物(ポスター・Web サイト)をつくる技能が身についている。 (b)問題と解決方法を適切に判断して選択できる。要件の定義など情報デザインの視点から考えることができる。情報デザインの考えをもとに表現できる。 (c)作業に積極的に関与しようとしている。</p>

令和 7 年度 国語 科 シラバス

科目	現代の国語	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	「現代の国語」(数研出版)				
補助教材等	・現代の国語準拠ワーク (数研出版)・核心漢字 2500+語彙 1000 (尚文出版)・評論速読トレーニング 1500 (数研出版)・小説速読トレーニング (数研出版)				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 評論文を読むときには、論旨を正確に把握することを意識して読みましょう。
- 論旨を早く正確につかむためには、読み慣れることが必要です。普段から新聞・小説・韻文についても広く興味を持ち読書をしましょう。
- 授業の前には単元で扱う題材を読み、分からない語句を調べておきましょう。また、分かりにくい表現や記述をチェックしたうえで授業にのぞんでください。
- まず自分の「読み」をしましょう。その「読み」があつてこそ、授業で確認される「読み」との照合が図られ、自分の「読み」の深化につながります。どの語句や記述に着目したのか、構成をどのように捉えたのか、筆者の主張や論旨などをどのように捉えたのか、自分の「読み」を確認する機会が授業です。
- 周りの仲間との意見交換や協働学習が自分の見識を広げます。ペア・グループワークの機会を大いに活用しましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会で課題を発見し解決に導く国語の知識や技能を身に付けて適切に使っている。	他者と共に論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、自分の考えを相手に伝えるように言葉を通して伝え、積極的に他者や社会と関わろうとしている。
主な評価方法	・漢字小テスト ・定期考査 ・ワークシート記述内容	・定期考査 ・ワークシート記述内容 ・発表時の内容	・授業中の行動観察 ・ペア、グループワーク時の行動観察 ・ふりかえりの記述内容確認、分析

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「叙述を基に筆者の考えを的確に捉え、要旨を把握する」	「書けない日々」	6	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の「～ではなくむしろ～」、「しかし～」、「だから～」に着目し筆者の考えを捉える。 各段落内容の繋がりを捉え、要旨を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。(a) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b)
5	「自分の考えを明確に書く」	「コミュニケーション能力とは何か」	8	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の「つまり」、「～とは」に着目し論理の展開を捉える。 「話題の提示」、「考察」、「主張」の展開を捉え、筆者の考える「コミュニケーション能力」を理解する。 「コミュニケーション能力」とは何かについて自分の考えを文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができている。(a) 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、伝えたいことを明確にしている。(b)
6	「対比を使って自分の考えを書く」	「水の東西」	8	<ul style="list-style-type: none"> 東西の「水」の対比関係を捉え、論の展開のしかたを把握する。 文章内容に関連した具体例を探し、対比を用いて文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。(a) 自分の考えを相手に伝わるように言葉を通して伝え、積極的に他者や社会と関わろうとしている。(c)
7 8	「論理の展開を的確に捉え筆者の考えを理解し自分の考えを深める」	「ポスト・プ ライバシー」	8	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の「たしかに～だが…」、「しかし～」、「むしろ～」、「すなわち～」、「もちろん～しかし…」に着目し論理の展開及び筆者の考えを捉える。 「話題提示」、「考察」、「主張」の展開を捉え、筆者の考える「アイデンティティ形成の拠点」を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 推論の仕方を理解し使っている。(a) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b)
9	「具体例を示して自分の考えを書く」	「ものごと とば」	8	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の「たとえば～こんなふうに…」、「このように～」に着目し、具体例と筆者の考えの関係性を捉える。 ものと言葉の関係を考えると 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。(a) 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の

				き、「唯名論」と「実念論」のどちらの立場をとるか、具体例を示して文章にまとめる。	仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。(b)
10	「自分の考えを的確に伝える」	「命は誰のものなのか」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例と筆者の考えを捉え、「命は誰のものなのか」に対する筆者の立場を把握する。 ・「命はだれのものなのか」に対する自分の立場を明らかにして相手に的確に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさに配慮した表現や言葉遣いについて理解し使っている。(a) ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にし、話の構成や展開を工夫している。(b)
11	「論理展開を考えて自分の考えを書く」	「感情暴走社会の由来」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「話題の提示」、「具体例」、「分析・考察」、「主張・結論」の展開を捉え、筆者の考える「感情と理性の関係」を理解する。 ・本文の論理展開を捉えた上で、テーマに対する自分の考えを文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。(a) ・筆者の主張を的確に理解したうえで積極的に自分の考えを深め、テーマに対して論理展開を考えながら論述しようと粘り強く取り組んでいる。(b)
12	「相手に分かりやすく伝える」	「時間と自由の関係について」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・対比構造を捉え、「時間の自由」についての筆者の考えを理解する。 ・本文の論理展開、筆者の考えを自分でまとめた資料を用いて相手に分かりやすく説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさに配慮した表現や言葉遣いについて理解し使っている。(a) ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いて相手の理解が得られるように表現を工夫している。(b)
1	「よりよい結論を導くために話し合う」	「浪費を妨げる社会」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「消費」と「浪費」の対比を捉え、筆者の考えを読み取るとともに、筆者の立場がどちらであるのかを把握する。 ・「消費と浪費」の筆者の考えに対する賛否を話し合い、結論を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主張と根拠など情報と情報との関係について理解している。(a) ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的や状況に応じて、結論の出し方を工夫している。(b)
2	「説得力の	「無痛化す	6	・比喩や例示、言い換えなどの修	・比喩、例示、言い換えなどの修

	ある文を書く	る社会のゆ くえ」	<p>辞に着目し、その効果について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題提起」、「具体例」、「分析・考察」、「主張・結論」の展開を捉え、筆者の考える「無痛化」を理解する。 ・筆者の論理展開や「無痛化」にたいする考えを踏まえ、テーマに対する自分の考えを文章にまとめる。 	<p>辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。(b)
--	--------	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和 7 年度 国語 科 シラバス

科目	言語文化	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年・全クラス
使用教科書	「言語文化」 (数研出版)				
補助教材等	・言語文化準拠ワーク (数研出版) ・古文単語 315 (桐原書店) ・明快古典文法 (いっずな書店) ・明快古典文法必修ノート (いっずな書店) ・新明説漢文 (尚文出版) ・新明説漢文ノート (尚文出版) ・古典速読トレーニング入門 (数研出版)				

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会活動に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】</p>

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○まず初めに古典作品を音読し、仮名遣いや表現、独特のリズムに慣れ親しみましょう。</p> <p>○古文を理解するためには、基本的な古文単語を習得し、解釈に必要な古典文法の知識を確実に身につけることが大切です。分からない語句は古文単語帳活用等によりひとつずつ確実に確認するようにしましょう。古典文法は古典作品を読む中で、文法書を確認しながら身につけていきましょう。</p> <p>○古文世界の文化・生活習慣・ものの見方・考え方を現代と対比させ、生じる驚きや疑問を大切にしましょう。自分から疑問に思ったことを調べると、より古典世界に親しむことができます。</p> <p>○漢文は音読を通して漢文独特の言い回しやリズムをまず耳から身につけましょう。そのうえで書き下し文に直したり、重要句形をおさえたり、語彙を増やすことが漢文読解につながります。</p> <p>○学習をする中で、古文世界と漢文世界の思想面・文化面での密接な関わりやものの見方・考え方の相違点が見えてきます。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯を通して実社会で活用できる国語の知識や技能を身に付け適切に使っているとともに、我が国の言語文化を深く理解している。	他者と共に論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、自分の考えを相手に伝えるように言葉を通して伝え、積極的に他者や社会と関わろうとしている。
主な評価方法	・古典文法小テスト ・定期考査 ・ワークシート記述内容	・定期考査 ・ワークシート記述内容 ・発表時の内容	・授業中の行動 ・ペア、グループワーク時の行動 ・ふりかえりの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「古文に親しむ」	「児のそら寝」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し音読する。 ・現代語と異なる意味の語句を確認し、現代語訳する。 ・児と僧の描写から児の心情を捉える。 ・「児のそら寝」のどの点が面白いのか交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(a) ・「説話」を踏まえて、「児のそら寝」の内容や構成について叙述を基に的確に捉えている。(b)
5	「近代小説と古典文学について考察する①」	「絵仏師良秀」 「地獄変」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い・語句・用言を確認し現代語訳をする。 ・良秀の人物像を捉え、作品内容を理解する。 ・「地獄変」を読み、「絵仏師良秀」との共通点・異なる点についてワークシートにまとめ発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(a) ・「絵仏師良秀」と「地獄変」との共通点・異なる点を言葉を通して他者に伝えようとしている。(c)
6	「『作者の伝えたいこと』を捉える」	「つれづれなるままに」 「神無月のころ」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い・語句・用言・助動詞について確認し現代語訳をする。 ・「つれづれなるままに」「神無月のころ」は作者が何を伝えようとして著した作品であるかをワークシートにまとめ発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(a) ・「つれづれなるままに」と「神無月のころ」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(b)
7 8	「漢文に親しむ」	「言語文化と漢文」 「入門一」 「漢文チェックポイント〔1〕」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文と日本語の歴史的・文化的つながりについて理解する。 ・漢文の訓読について理解する。 ・日本語にある「漢文」について具体例をあげ交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の言語文化の特質や日本の文化と当時の中国の文化との関係について理解することができる。(a) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。(b)
9	「故事成語を用いて文を書く」	「漁夫之利」 「矛盾」 「狐借虎威」 「朝三暮四」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文作品それぞれの内容を捉え、故事成語が現在どのような意味で用いられているのかを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。(a)

				<ul style="list-style-type: none"> ・他の故事成語を調べ、自分の体験文を故事成語を用いて書き、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方を工夫している。(b)
10	「和歌を解釈する」	「芥川」 「東下り」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い・語句・用言・助動詞・助詞について確認し現代語訳をする。 ・和歌の修辞について理解する。 ・「芥川」と「東下り」で読まれている和歌の修辞の効果と込められている思いについて考え、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(a) 「芥川」と「東下り」で読まれている和歌の修辞の効果と込められている思いについて、自らの学習を調整しながら見通しをもってまとめようとしている。(c)
11	「敬語表現から人物関係を捉える」	「なよ竹のかぐや姫」 「天人の迎へ」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い・語句・用言・助動詞・助詞について確認し現代語訳をする。 ・敬語表現を探し、誰から誰への敬意かを的確に捉える。 ・敬語表現をもとに、人物相互の関係性を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(a) ・序「漂泊の思ひ」と「平泉」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(b)
12	「身近な名所を紹介する」	「序 漂泊の思ひ」 「平泉」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い・語句・用言・助動詞・助詞・俳諧について確認し現代語訳をする。 ・俳諧に込められた思いや情景を読み取り、作品内容を解釈する。 ・「平泉」を参考に、自分の身近にある名所を紹介する文を書き発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(a) 「序 漂泊の思ひ」と「平泉」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(b)
1	「漢詩を読み味わう」	「登觀鵲楼」 「静夜思」 「山中問答」 「登高」 「八月十五日夜禁中独直对月憶元九」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の歴史的背景・形式・構成・規則について理解する。 ・それぞれの漢詩の背景・形式・構成を捉え、詩人の思いを読み取り作品を解釈する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(a) ・漢詩の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(b)

2	「近代小説と古典文学について考察する②」	「羅生門」「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」	6 <ul style="list-style-type: none"> ・「羅生門」と「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」を読み比べ、相違点を探す。 ・相違点が「羅生門」にどのような効果をもたらしているかをワークシートにまとめ、意見交換する。 	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(a) 「羅生門」と「今昔物語集」の差異を探し、学習課題に沿って考察しようと粘り強く取り組んでいる。(c)
---	----------------------	----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

令和 7 年度 地歴公民 科 シラバス

科目	地理総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 年全クラス
使用教科書	「わたしたちの地理総合」（二宮書店）				
補助教材等	詳細現代地図（二宮書店）、わたしたちの地理総合ワークブック（二宮書店）				

1 学習の到達目標

地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 地理用語は教科書に出てくる範囲でいいので、授業前後に調べておく。
- 授業では地理的特徴と人々の暮らしの関係性について思考を深めること。
- 自分が理解したことや、考えたことを伝える努力をし、思考力を鍛え、表現力を磨くこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨			
主な評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業での課題

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	第1章	教科書	22	◎地図とGISの活用 1, 球面上の世界 2, 国家の領域と領土問題 3, 国内や国家間の結びつき 4, 日常生活の様々な地図	(a)(b)(c)球体としての地球, 時差と生活, おもな図法による世界地図, 地図の表現を理解しているか。 (a)(b)(c)身の回りにある地図を題材にして, 地図を用いた情報伝達の方法を習得しているか。紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し, 活用しているか。
7 8 9	第3章	教科書	24	◎地球的課題と国際協力 1, 人口(a)(b)(c)食糧問題 2, 居住(a)(b)(c)都市問題	(a)(b)(c)地球規模でおこっている問題について, 系統地理的視点と地誌的視点を組み合わせながら考察し

10				3, 資源(a)(b)(c)エネルギー問題 4, 地球環境問題	ているか。 (a)(b)(c)主題図や統計資料から解決するための政策や事例に触れながら、方策を構想しているか。 (a)(b)(c)国際協力の必要性や日本とのつながりについて、考察しているか。
11 12 1 2	第4章	教科書	24	◎生活圏の諸課題 1, 自然環境と防災 2, 持続可能な地域づくり	(a)(b)(c)自然災害や都市型災害などが発生することを世界的な視野からとらえ、その要因と特徴、防災や減災への取り組みや課題を考察しているか。 (a)(b)(c)地域調査の一連の手順を理解し、各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想しているか。